

- 1 日時・場所 平成26年12月3日(水) 5校時(14:00～14:45) 教室
- 2 学年 4学年2組 児童数 39名
- 3 単元名 「4-2おとなになるっていうことは物語
～未来の自分に役立てるために『職業デジタルリーフレット』をつくって
街中(まちなか)で働いている人の心の火をしょうかいしよう～」
教材名 「アップとルーズで伝える」「仕事リーフレットを作ろう」(光村図書)

4 単元について

(1) 児童の実態

- ・課題解決的な学習展開を楽しみながら、自ら学習を進めていこうとする姿勢が見られる。前年度の学習から、教科横断的に学習したり既習の学習を活かしていこうとしたりする意識をもつ子どもが多い。
- ・「書くこと」に関する実態として横浜市学習状況調査においては図1のような結果である。「15 文章をよりよい表現に書き直すこと」に課題が見られている。そこで5月に「新聞を作ろう」で新聞の形式を学習し、その後は社会科や行事などで疑問に思ったことを調べたり、心に残ったことをまとめたりして報告する学習を重ねてきている。その際の制作はメディアセンターで一人一台のPCを使い、児童用の新聞制作用アプリケーションソフトを活用している。この活動から何度でも容易に修正できるデジタルの良さを生かして、推敲することを意識できるようになってきている。

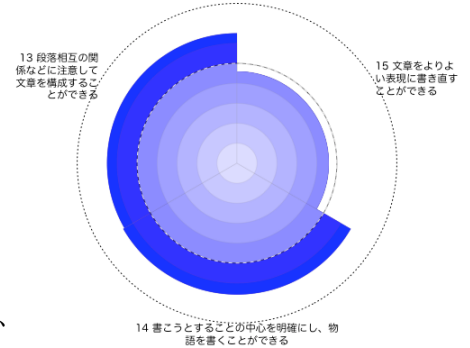


図1 平成25年度横浜市学習状況調査結果
港北小学校3年生 「書くこと」

- また、「段落相互の関係などに注意して文章を構成すること」は、本単元でのリーフレットづくりのなかで、効果的な紹介のための文章構成について考えさせ、さらに伸ばしていきたい力である。
- ・伝え合うことの学習としては、9月「だれでも関わり合うために」で、図書資料やweb上の情報、体験活動などを通して取材したことをまとめ、互いに説明し合う活動をしている。取材した内容から伝えたいことを選択し、効果的な順序や資料の見せ方の方法を考えて、ワークショップやプレゼンテーションなどの形式を選んで説明した。
 - ・夏休み明けの8月末より、2人組で1台のタブレット端末を使用している。タブレット端末を使って写真を撮影して観察記録を書いたり、説明の際の提示資料を作成したり、グループで教具の使用方法を動画でまとめたりするなど、様々な教科・領域の学習活動で利用してきている。

(2) 単元の特徴

- ・本単元では写真と文章を使って、自分が伝えたいことを効果的に説明したり、紹介したりすることをねらいとする。
- ・「アップとルーズで伝える」は「アップ」と「ルーズ」の意味やはたらきの違いを写真と文章で説明している。写真と関連させながら文章を読み取り、段落の内容や、対比的に表した説明、段落相互のつながりを学習することができる。
- ・「仕事リーフレットをつくろう」の単元をつなげて、読むことと書くことの複合単元として扱い、写真に対応する説明的な文章を、「アップ」「ルーズ」の視点で書かせるようにする。教材文を読み取りながら書く活動につなげていけるよう関連を図り、必然性をもった学習ができるように配列してある。

(3) 教師の願い

本学級の子どもたちは今年度中に10歳になる。1月には保護者やお世話になった方々を招いての「10歳を祝う会」を予定している。そこでまず、単元に入るときに、「おとなになるということ」について十分にイメージを拡げさせたい。そして、1月までの様々な学習や、生活のなかで考えを深めていけるようにさせたい。「おとなになるということ」から、自然に子どもたちの思考は「働くこと」「職業」にも向いて行く。そこで、それぞれがグループに分かれて身近な職業について調べて説明し合う活動に自然につなげて行くことができるはずである。

本単元で取り扱う職業については、子ども自身が目指している職業ではなく、「何度も取材できる

くらい身近な人」として昨年度、今年度の間に学習を支えてくださった方々を中心に選ぶことにしたい。この学習を通して、身近な職業に就いている大人、一人ひとりの心の中にある「職業への思い」や、「日常の苦心や手応え」について実感し、説明し合うことから「おとなになるということ」について考えを深めていけると考える。そうして「10歳を祝う会では、自分のもった職業観や大人への敬意をもとに、招待した保護者に向けて自分なりの見方・考え方を発表する」という次の学習活動とゴールを設定し、つながりと切実感のある問題解決学習にしていきたい。

5 研究主題とのかかわり

平成26年度横浜市情報視聴覚教育研究会 授業デザイン部会研究主題

「教育メディアを活用し、コミュニケーション力を育む授業デザイン」

(1) ICTの活用

機器・・・タブレット端末(Windows8.1) 22台 電子黒板 画面転送システム

アプリケーション・・・ロイロ・ノート

普段は二人で一台のペア学習で活用しているが、本単元では4人グループで協働的にデジタルリーフレット制作をする。そのため、本時では「4人に二台」の活用を基本としたい。一台で写真を閲覧しながら、一台で制作を進める作業をする。画面転送システムによって、児童機より教師機に送られた画像を電子黒板に映して共有する。

ロイロ・スクールは、タブレット端末用アプリケーションであり、静止画・動画の撮影や、書き込み等の編集機能、ページの追加、削除、並び替えなどが簡単で、全体の構成を俯瞰して作業することができる特徴がある。本学級の児童が日常的に一番よく使用しているアプリケーションでもあり、どの子どもも使い慣れている。

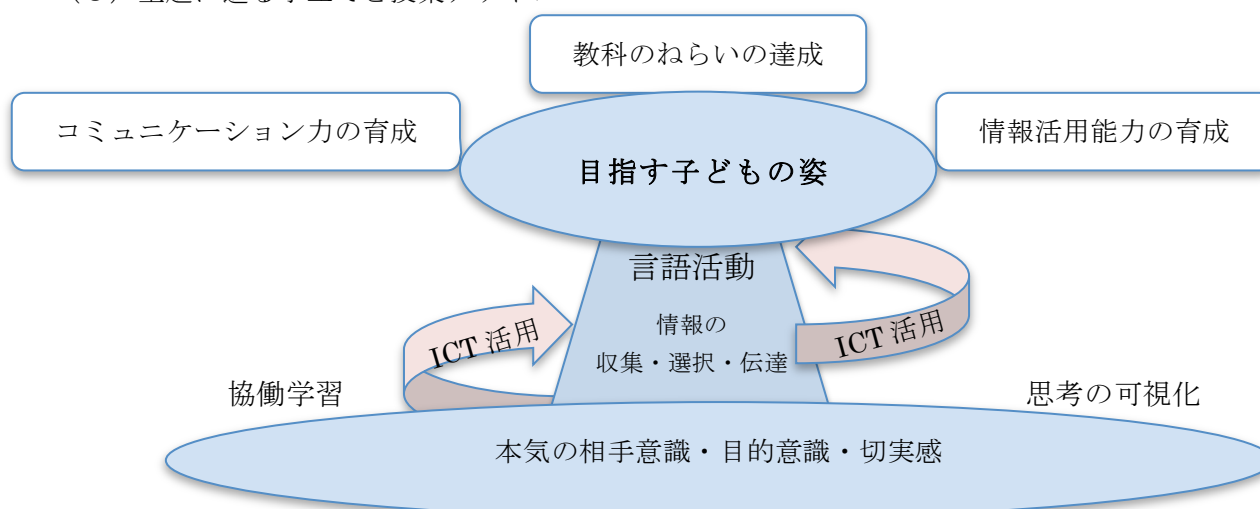
(2) コミュニケーション力の育成

「アップとルーズで伝える」を読みながら、デジタルリーフレット作りを視野に置き、「写真に対応した文章を書く」というねらいをおさえていく。教材文において対比的に書かれた本文や、それに対応する写真を比べて読み取りながら、自分のリーフレット作成に活かしていくことを常に考えさせたい。

これと並行して進める学習として、3～4人のグループごと一つずつの職業について調べ学習を進めて行きたい。個人でしっかりと取り組ませた後に、それを持ち寄っての協働的なリーフレット制作に取り組むことにする。学習を進めるにあたっては、実際に働いている人へのインタビュー取材を大切にしたい。実際に会えない遠方の人物については、電話やFAX、電子メールでの質問、手紙など非対面コミュニケーションの場面も仕組んでいきたい。必要感をもって情報リテラシーを身に付ける機会にできるはずである。

取材した事実を根拠に、伝えたい事柄にあった事例の選択や、その構成、より効果的な伝え方を考える場面等を仕組んでいきたい。答えが一つではない問題を話し合わせるなかで、相手意識・目的意識に合わせた「最適化の追求」を話し合う主張的レベルでのコミュニケーション場面を仕組んでいきたい。

(3) 主題に迫る手立てと授業デザイン



<言語活動の特徴>

本単元を貫く言語活動として「デジタルリーフレットを制作して紹介すること」を位置付けた。

自分の課題を解決するために目的をもって取材したことや関連図書から得た情報を整理し伝達する言語活動は、他教科・領域等での学習でも有効に活かしていける活動である。

なお、本単元で扱う「デジタルリーフレット」とは、紙製のリーフレットとは異なり制作後に印刷することを想定せず、タブレット端末の画面上で閲覧するものとする。

「デジタルリーフレットを制作して紹介すること」の特徴として、主に以下のようなことが挙げられる。

- ① 具体的に相手をイメージして紹介する内容を選択する。
- ② 目的に合った調査活動をする。
- ③ 情報の収集、伝達する場面で写真、録画、音声などを活用する。
- ④ 集めた情報を分類整理する。
- ⑤ 伝えたい内容によって写真、動画、音声など情報の種類を選ぶ。
- ⑥ 書きたいことの中心、写真などの組み合わせについて検討する。
- ⑦ 目的にあわせた構成について工夫する。
- ⑧ 紙媒体よりも推敲が容易い。
- ⑨ 複製し修正前後の成果物を残すことができる。
- ⑩ 持ち運ぶことのできるタブレット端末を紙面代わりにすることで、場所を選ばず動画・音声なども閲覧する。

「デジタルリーフレットを作って説明する」という言語活動の特徴が、単元目標の実現にむけて有効である点と考えるのは、以下の3点である。

一点目は、相手意識である学級の友達にとって「仕事に就いている大人の職業観や、職業に対する本気の姿を感じることができるか」「新しい気付きがあるか」を意識しながら取材や調査を進め、効果的に説明するための工夫ができる点である。

二点目は、取材したり、調査したりする中で集めた写真や動画をデジタルリーフレットに取り込み、写真と文章を対応させて書くよう工夫できる点である。「アップとルーズで伝える」で学習した効果的な写真の選び方と文章の対応について活用していく。その過程において、これまでの印刷した写真を使つての授業に比べて、タブレット上で写真の扱いが容易に、無駄なくフレキシブルに行えることが大きな利点だといえる。

三点目は、グループで調査した職業についてのリーフレットを読み合い修正を重ねるなかで、質問や感想を述べやすくなる点である。タブレット画面で何度も試すことによって、細部にわたって吟味したり、意見したりすることができ、ねらいに沿った思考を深めることにつながるはずである。

以上のことから、

「関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること」(B 書くこと 課題設定や取材 ア)「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」(B 書くこと 記述 ウ)を実現できると考える。

<情報活用能力の育成>

適切な「情報の収集・選択・伝達」について理解を深めさせたい。

これまでの学習のなかで出会ってきた大人や、保護者へのインタビュー、提供されたり自分で写したりした画像、web上の情報、さらに図書資料などから、自らの課題に沿った情報を収集し、選択して伝達できる力をつけたい。

そのために、以下の点における指導に配慮する。

- ① 学校司書と連携した図書活用
- ② 適切なインターネット検索の仕方の理解
- ③ 情報の出典元の確認と引用の仕方
- ④ 著作権・肖像権についての配慮
- ⑤ インタビュー・質問のための電話や電子メールなどのマナー
- ⑥ 適切な個人情報の扱い

<ICTを活用した協働学習と思考の可視化>

同じテーマで探究している友達と協働的に学習を進めることで、情報を分類整理・選択する場面では細部に

わたっての検討がかなうはずである。最適な構成、内容、表現などについて、繰り返し話し合う際、相手意識・目的意識、情報収集した事実などを根拠に相手を説得したり、折り合いを付けたりする主張的なコミュニケーション力が必要となる。児童が十分に互いの思考を可視化しながら学習を進めていくために、ワークシート、思考ツール、付箋紙などのツールを活用し、話し合いの過程が残せるようにする。これらは教師にとっても各グループの状況を見取る一助となり、課題解決に向けての適切な支援につながるはずである。

教材文を読むこと、デジタルリーフレットを制作することにおいて、常に「写真から読み取ったことを文章に活かすこと」「伝えたい言葉を効果的に表す写真を選ぶこと」を何度も往復しながら、「より効果的に伝える表現」「写真と伝えたい言葉が合致した表現」について考えさせたい。

協働的な学習において ICT を活用して思考を可視化することで、コミュニケーション力を高めながら教科のねらいに到達していけると考える。

6 単元の計画

(1) 単元目標

重点化した指導事項「B 書くこと」ア 課題設定や取材 イ 構成

身の回りの大人の職業に対しての思いを知るために「職業リーフレット」をつくるという目的や、その相手に応じて、写真と文章を対応させながら説明する文章を書くことができる。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)イ (ク)

指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。

(2) 単元を貫く言語活動

書くこと ウ 「収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと」

(3) 単元の評価基準

<国語への関心・意欲・態度>

- ① 進んで身近な職業についての資料を集めたり、聞き手の友達にとってわかりやすく伝えようとしていたりしている。

<書く能力>

- ② 関心のある職業から書くことを決め、紹介する文を書くうえで必要な事柄を調べることができる。ア
② 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」(B 書くこと 記述 ウ)

<言葉についての知識・理解・技能>

文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。 伝国 (1) イ (エ)

(4) 指導計画 (全18時間 本時16時)

1次	2次	3次
① 10歳になった自分たちの成長から「おとなになるということ」について考えを交流する。 ② 「アップとルーズで伝えよう」「仕事リーフレットを作ろう」の二つの単元のつながりを考え、この一年間に4年2組に力を貸してくださった様々な職業の方々を想起し、職業を説明するリーフレットを作成し、読み合おうという学習課題をもつ。 ③ 「アップとルーズを伝える」を読み取って「説明のコツ」を見つけながら、それを活用してリーフレットを作るという学習計画を立てる。 ④ 「仕事リーフレットをつくろう」を読んで、「取材のコツ」を見つける。教師の作例を参考にして学習の見通しをもち、取材の計画を立てる。	④⑤⑥自分が調べたい職業について調べて、質問を計画しインタビューなどの取材活動をする。⇒情報の収集 ⑦ 「アップルーズで伝える」を読み文章の大体をとらえる。 「アップ」と「ルーズ」の意味を読み取る。 ⑧ 「アップ」と「ルーズ」の長所と短所を読み取る。 ⑨ 写真と文章の対応させた書き方 対比した書き方から、筆者の説明の工夫を読み取る。	⑩ リーフレットにアップとルーズで対比して書く内容 や写真を選ぶ。⇒情報の選択 ⑪⑫筆者の説明の工夫を活かしてリーフレットの下書きをする。 ⑬⑭⑮ リーフレットを制作する。 ⑯作った物を見合って検討し、修正する。 ⇒情報の伝達 (本時) ⑰他の班のリーフレットを読み合う。 ⑱学習を振り返り、大人の職業への思いについて考えたことを出し合い、交流する。

<リーフレットで取り組む職業>

- ① 養護教諭
- ② 給食調理員
- ③ 横浜市立盲特別支援学校 教諭
- ④ 学校事務職員
- ⑤ 横浜市消防局 通信指令員
- ⑥ 神奈川県警 菊名池交番 巡査
- ⑦ 学校司書
- ⑧ タブレットやアプリケーション等を貸与してくださったメーカー担当者
- ⑨ 妙蓮寺にここ商店街 café 茶寿 オーナー
- ⑩ ヨークマート妙蓮寺店 店長

<保護者>

保護者に学級通信等を通じて学習過程を示しながら進めていく。

感想を寄せてくださったら、場合によっては掲載するなどしてシェアしていけるよう協力を仰ぐ。

今回は取材対象にはしないが、職業観や働いている気持ちなども、子どもの発言などから取り入れていきたい。その際、人権意識をもって取り組み、十分に理解を求めることとする。

7 本時

(1) 本時目標

身の回りの大人の「職業に対しての思い」を伝えるという目的に合わせて作ったリーフレットを読み合い、写真と文章の対応の整合性や、全体の構成について修正をすることができる。

(2) 本時展開

学習活動と内容	評価規準＜評価方法＞ ○指導の手立て ◎活動をねらいにつなげる主な「しかけ」
1 本時のめあてを確認する。 学習を進めるために、見通しをもつこと	○学習計画表を掲示し、いつでもめあてや活動を確認できるようにする。
「職業リーフレット」の文と写真の組み合わせがぴったり対応しているか読み直し、完成させよう	
2 例に示した写真選択の観点をもとに、候補のなかから写真を選ぶ。 観点に沿って、根拠を示しながら選択すること 本気度を伝える観点例 ・ 文章の記述と写真が合っているか。 ・ 対比的な段落構成になっているか。 ・ アップとルーズのどちらが適切か。 ・ その職業、その人ならではの工夫を伝えているか。 ・ その人の仕事への思いを具体的に伝えているか。 3 結論が出せないグループや、選択に時間がかかったグループの事例を取り上げ、全体で交流する。 自分の考えを説明すること 4 本時の振り返りを行う。 それぞれが根拠をもって決めたことを確認すること 5 次時の学習の見通しをもつ。 ・ 互いのリーフレットを見合い、働く人の本気について考えていくという見通しをもつこと	○ タブレットのなかに保存している写真が並べて比較できるようにしておく。 ○ 書いた文章に合わせ、アップ、ルーズなどの写真を2～3枚に絞っておく。 評価規準①（書） 友達に自分たちが調べた「職業の特徴」と、「調べた相手の本気の思い」を伝えるため、写真と文章が適切であるかについて、観点をもとに意見を出し合い、修正したり、選択したりしている。 ◎ 気付きを書いた付箋を原稿用紙に貼りながら改善点について話し合えるようにする。 ○ 困っていることを全体に相談できるように促し、共有しながら考えられる場面を作るようにする。 ◎ 児童のタブレット端末から電子黒板に作品を転送し、全体で共有する。 ◎ 迷っている点、選択の決め手となった点を他のグループに予想させて思考を促すことができるようにする。 ○ 子どもが見出した新たな視点や、目的に合致した選択を価値づける。 ○ 学習のゴールをイメージしながら、それぞれの活動が次時の学習へつなげられるようにする。

授業の視点

- ・ 本時のねらいを達成するための ICT 活用ができていたか。
- ・ ICT がコミュニケーション力を高めるための手立てとなっていたか。